



八千代市郷土歴史研究会
 会長 村田一男
 事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

4月20日(日) 午後1時より
 平成15年度定期総会
 を開催!
 於: 八千代市郷土博物館

お知らせ

・5月18日(日) 午後1時より
例会(高津新田調査情報交換など)
 於: 八千代市郷土博物館

・6月22日(日) 午後1時より
例会(高津新田調査情報交換など)
 於: 八千代市郷土博物館

当面のスケジュール(案)

8月10日(日) 午後
例会(高津新田調査まとめ)

9月7日(日) 午後
役員会(「史談八千代」原稿〆切)

9月14日(日) 午後
例会(展示の企画・「史談八千代」
 編集)

10月12日(日) 午後
例会(展示の企画・「史談八千代」
 編集)

10月19日(日) **バス見学会**

11月22-23日
 市民文化祭参加「郷土史展」

12月21日(日)
 市内見学会と忘年会

以上は総会の議事その他により、変更
 される場合があります。

・7月12-13日(土・日) 佐原の大祭見学会

佐原駅 4時集合
 勝田台 14:44 - JR成田 15:24 発

佐原市内に一泊し、「『関東
 三大山車祭り』のひとつであ
 る佐原の夏祭り(本宿の八坂
 神社の祇園祭り)の特に勇壮
 な夜祭を見学します。

翌日は、貸し切りバスにて
 佐原市周辺の史跡を見学し
 ます。



「郷土史研通信」のバックナ ンバーのご利用について

本通信の第1~40号合冊本を
 製本して、市内図書館・博物館・
 文化伝承館に寄贈しました。

バックナンバーをお読みに
 なりたい方は図書館等をご利用
 ください。

また34号からは次のサイトで
 もご覧になれます

http://yatiyo-web.hp.infoseek.co.jp/kyoudo/kyoudo_index.htm

平成14年12月22日(日)
 12月例会報告
 古民家調査と反省会
 牧野光男

当日は参加者18名、八千代台
 駅13時集合。

八千代台公民館の学習室に移
 動して、現地に入る前に民家の
 調査要領などの資料をもとに勉
 強会を始める。

第一につまずくのはその箇所
 名或いは部材の名前である。引
 き戸と引き違い戸、欄間と天袋、
 床板と床框、鴨居と中鴨居など
 普段はあまり使う事の無い言葉
 とその箇所が錯綜してなかなか
 大変。畳の敷き方などもそれな
 りの理由があることなど一通り
 の説明の後に、この学習室をグ
 ラフ用紙に書き取る事になる。

これは?あれは?としている
 うちに予定の時間を過ぎて現地
 に移動する。

高津新田の古民家は旧陸軍習
 志野演習場の拡張に伴って、明
 治38(1905)年に旧小字西野(現
 習志野市東習志野地区)から移
 築されたもので、増改築はされ
 ているものの昔の姿を残してい
 る建物である。



南に張り出した玄関を入り畳
 敷きの部屋で、移築時に風水を
 占った図面を基に、先ほど学習

したことを早速実行に移す。

田の字型に各部屋の繋がったかつての農家の、床の間と床脇の違い棚、廊下に張り出した書院など、最近少なくなり見かけなくなった造作に興味を残しながら、見とれているわけにも行かず、板の雨戸が閉めきりになっている半暗がりの中を見て回り、各人がグラフ用紙に書き取ってゆく。

冬の陽はつるべ落しとか、曇り空が一段と暗くなり、本日は予行演習的に終わることになった。



会場を駅前通りから横に入った居酒屋「三峰」の一室に移し反省会（忘年会）を開く。本年度の旧村の紹介「高津新田」は「千葉寺十善講」の同行取材から始まり、「のまどで」という先人の研究成果を基に、思いの他多彩で奥が深く、次年度も調査研究を続ける事になり、会員諸氏には今年度の成果をより発展させ記録して行こうと言うことになった。

その他の報告

2月16日(日)例会
市郷土博物館にて午後1時より、15名の参加で、3月金砂神社大祭見学の説明や、古文書などの学習を行いました。

3月9日(日)拡大役員会
市郷土博物館にて午後1時より、14名の出席で15年度定期総会へ向けて、行事や研究調査や、次期役員会の拡充についての討議を行いました。

「のまどで」著者 ご子息よりの手紙を紹介

『史談八千代』第27号に掲載した稲垣良様の復刻版について、このほど、それをご覧になった稲垣良様のご子息で、現在習志野市にお住まいの稲垣征紀様から丁寧なお礼状が届きましたので、次にその全文を紹介します。

新年あけましておめでとうございます。

さて正月2日、例年の本家(稲垣和男)への年始挨拶の時に、貴誌『史談八千代』第27号を受領させていただきました。貴重なページをさいて父(稲垣良)の書きました「のまどで」をそっくり意義高く掲載して頂き大変感謝いたします。

さっそく仏前に供え皆様の御好意を報告しました。たまたま帰省していた私の長男が2歳の頃、父が描いている馬の絵を覚えており、久しぶりに父の想い出にひたることが出来ました。

父も自分の趣味でやっていたことが予想しなかった形で立派な機関誌となり、八千代市の方々に広く読まれることで大変光栄と喜んでいると思います。本当にありがとうございました。

御丁寧に配慮して頂いた村田会長さんをはじめ研究会会員の皆様のますますの御発展をお祈りし、御礼の言葉とさせていただきます。

寒さ厳しき折、御身大切に
1月3日 稲垣 征紀

NEWS

「高津のハツカビシャ」と「高津新田のカラスピシャ」が、1月24日付けで新たに市の文化財に指定されました。



平成15年1月5日(日)

深川七福神巡りと 史跡を訪ねて 福田和夫

新春恒例の七福神巡りも今年は深川の七福神と周辺の史跡を巡るといふことで、JR両国駅前に午前10時に集合した。

参加者は会員外の方を含め34名。寒気も少しゆるみ、風もなく好天に恵まれ、小菅さん関和さんの案内で10時20分出発した。大川の東側を両国から門前仲町まで南下するコースである。

両国3丁目(日本橋松坂町)の吉良邸跡へ入る。討入りの当時2577坪もある広大な屋敷だったというが、今残されているのはわずか30坪程が、隅に古びた井戸がある。首洗いの井戸と立札があるのが印象深かった。

豎川にかかる塩原橋は塩原太助が上州の片田舎から出てきて、薪炭商として成功した店がこの近くにあったことから名づけられた。その橋を渡って江島杉山神社、西光寺、初音神社と参拝し、要津寺に詣でる。本堂の手前右側に芭蕉翁佛塚や蕉門の雪中庵関係の石碑群があり、関和さんから解説があった。



六間掘の跡を通り深川神明宮に近づくと、深川七福神の赤い旗がはためいている。この地を開いた深川八朗右衛門が伊勢皇大神を分祀したといわれ、本殿の右に寿老人が祀られている。

参拝をしてから境内に詰められている氏子の人にトイレのありかを聞き、一息つく。



小名木川にかかる高橋を渡り布袋尊を祀る深川稲荷神社へ参拝する。近くに大鵬部屋や北の湖部屋があり、親方の名前でお神酒が供えられていた。氏子のおばさん達のお茶の接待があり、乾いたのどをうるおしてくれる。

そのあと家康の側室阿茶局のお墓がある雲光院へ寄り、毘沙門天を祀る龍光院へ参拝する。

このあたりへくると他の七福神巡りのグループと一緒に大層賑やかになる。その間を縫うようにして大黒天を祀る円珠院へお参りする。ここも参拝客で混雑していた。

仙台掘川にかかる海辺橋を渡ると採茶庵跡がある。芭蕉が芭蕉庵を手放したあと、門人杉風の別荘であったこの庵に「おくのほそ道」へ出立するまで住んでいたという。

増林寺へ寄ったあと、福祿寿を祀る心行寺へ参拝する。福祿寿は六角堂に安置されていた。



法乗院の閻魔堂へお参りする。お賽銭を入れると閻魔様の教えを聞くことができる。

弁財天を祀る冬木弁天堂へ参拝する。銭洗いの池があり、ざるが備えられていたので、ご利益を願いつつ銭洗いをやってみる。

和倉橋を渡って富岡八幡宮の境内へ入る。日がかげり風も少しでてきてうすら寒い。時刻も午後1時をすぎている。ここで昼食休憩ということになり、それぞれお好みの店へ入って昼食をとり、身体を暖め疲れをいやす。

午後2時半に境内へ集まり、本殿と恵比寿様の参拝をすませた。さすがに参拝客が多く賑やかである。周辺の八幡橋、三十三間堂跡、七渡弁天社、永昌五社稲荷神社を巡る。

今日の最後の予定である深川不動尊に参拝する。本堂で行われている護摩の読経の声と太鼓の音が腹に響く。石段をのぼってくる参拝客が後を絶たない。

護摩が終るのを待って本堂の奥にある祈禱所を拝観する。守護神がずらりと安置され、ご祈禱の受付もしている。ミニ四国霊場八十八ヶ所も設けられているので拝巡した。

一日で七福神やこれだけ多くの由緒ある神社やお寺さんを拝巡したのは初めてで、今年は何か良いことがありそう。境内にて午後4時頃解散した。

詳細な資料を作っていただき案内して下さった小菅さん、関和さんに厚くお礼申します。参加された皆さんもお疲れさまでした。

製本教室を開催

2月16日午前中、「郷土史研通信」合冊本の製本教室を酒井さんの指導で行いました。

15名が参加し、本格的な製本の仕方を実習しながら、個人蔵書分の作成ができました。

また3月9日午前中は9名で図書館などへの寄贈分の製本を行いました。



2月23日(日)

新川千本桜植樹式と
平戸の旧家をたずねて
わらびゆみ

2月23日9時半より、新川の兩岸を桜並木にしようという新川千本桜植樹事業の14年度植樹式が、米本小学校グラウンドで行われ、本会からも会員9名が参加しました。

14年度は、八千代橋から神尾橋までの約2.5キロメートルの区域などに444本の河津桜ほかを植栽されます。

本会でも初年度の昨年は申し込んだものの抽選ではずれましたが、14年度はみごと当選。本会が里親となった桜の木は、平戸橋より南へ150mほど行った東岸のNo.644の苗木です。

式典後、おおぜいの市民とともにそれぞれ千本桜の苗木の植栽場所へ歩いて行き、本会の桜の木には30周年記念プレートを、会員の手で取り付けました。

15年度には、残りの神尾橋から阿宗橋までの約2キロメートルの区域に桜を植栽し、完了すること。本会の樹も市民の皆さんの樹とともに、数年後にりっぱな桜の花を咲かせることでしょう。



さらにこの日は、平戸橋まで歩くついでに歴史散歩もしようということで、会長がレジュメを用意し、染谷源右衛門家墓地などを廻りました。

最初の見学は、平戸橋西端の施餓鬼角塔婆と2基の水難横死供養碑。近世になって、利根川

付け替えによる洪水が頻繁に農民を苦しめたことを物語っていると同時に、石碑に刻まれた「南無妙法蓮経・・・」の刻字が、新川（平戸川）の西側が中世からの中山法華経寺領であったことを示していました。

ここで、地元長寿会のメンバーと植樹に来ていた福田さんのグループと会い一緒に写真撮影。



次に享保9年印旛沼の干拓工事を志した染谷源右衛門家の屋敷内の供養塔を調べました。

板碑型の墓石や石仏、宝篋印塔などおおよそ近世の供養塔がコの字型に並んでいます。

空は曇りがちで早春の風も寒かったが、源右衛門家の白梅がきれいでした。

さらに水神社からその隣、植草兵左衛門家へ。近世末期から近代にかけて印旛沼開削工事にたずさわったという旧家の門を見たところで、午前中のみという予定の時間が迫り、道の駅まで戻り解散しました。

二十四孝彫刻の究明 会員研究活動紹介

村田一男

今年の1月、松の内もとれて間もなくのこと村上昭彦・藤本涼輔の二氏は「八千代市萱田飯綱神社玉垣彫物調査報告書」という私家本をつくった。限定10部、本会や郷土博物館、文化伝承館などごく限られた配布であった。

二十四孝に関する二人の研究のきっかけは昨年10月の「八千代市文化財保護の会」の文化祭行事で萱田飯綱神社の二十四孝

のルーツを求めて八日市場飯高神社を探訪した。そのとき県内の二十四孝史料として「千葉県文化財実態調査報告書」（千葉県教育委員会1996年3月）から抜粋配布された内容を見て、県内の二十四孝例をさらに調査研究してみようということにあった。すぐさま八千代市内や近辺の調査にとりかかり成果をあげていった。

同好二人の二十四孝研究は藤本君が同じく本会会員の村上昭彦氏と以前から親しくしていたことにあった。彼は村上氏を「お兄ちゃん」とよび何かにつけて相談し指導をうけていた。今回の成果は二人の探究心と氏の機動力で研究が進化したのであった。市内桑橋の熊野神社には既知の2面ではなく3面3話あること、島田の大宮神社では5面5話を新発見し（この件は「郷土史研通信」第41号に藤本君の記事あり）、飯綱神社の玉垣彫刻の調査では二十四孝すべての場面があり、県内では希少例であることをつきとめたのであった。

八千代市の指定文化財である飯綱神社の玉垣彫刻二十四孝は、これまで19面21話と把握されていた。それは19面のうち2面に2話があって合計21話という見方であった。ところが19面のうち2面だけではなくさらに3面つまり合計5面に各2話が彫られていたことが判明したのであった。報告書はこの事実把握にもとづき、二十四孝の彫刻場面をカラーで掲載しその下に孝行話を記述し、どの面にどの話があるか彫物の配置を図示し、一話ごとの建築彫刻調査票をつけている。手づくりだが大変わかりやすい出来栄である。

二十四孝の各場面は拝殿を右側からまわった玉垣から番号順に次のとおり。

1. 老来子 2. 田真・田広・田慶
3. 丁欄 4. 子
5. 曾参と朱壽昌 6. 癒黔婁

7. 董永と蔡順 8. 黄香
 9. 陸績と漢文帝 10. 関子騫
 11. 張孝・張禮と姜詩
 12. 呉孟 13. 郭巨 14. 楊香
 15. 山谷 16. 王祥と孟宗
 17. 王褒 18. 唐婦人 19. 大舜
- (注、波線部が新しく確認された)

ところで藤本涼輔会員が二十四孝に興味を持ったのは小学校3年生のとき、先生のヒントがきっかけで孝行話をしらべる自由研究をやっていた。小学校5年生になり母親とともに本会会員となった。彼は当時身を粉にして祖母の介護をする母親を見て「お母さんを二十四孝の25番目に入れてあげたい」と学校の作文「めぐり合えた二十四孝」に書いた。私はそれを見て感動し激励した。彼のお母さんにあとで聞いたところ「あのときは介護に手一杯でこどもにかまっていられなかったからでしょうか」と述懐しておられたが、母思いの気持ちが現れた現代版孝行話であった。彼のほほえましく真っ直ぐに育った情感と、自ら学ぶところが今回の報告書を師の村上会員とともにまとめあげることができたのである。

さて、1月8日(土)の八千代市立郷土博物館「ふるさと講座」では講師の久保木良先生にこの報告書を取上げられ二人は激励された。2月22日(土)の飯綱神社の文化財防火デーでは二十四孝の講演を行った。彼らは今も市内神社彫刻や絵馬の調査を継続している。

編集後記

3月22-23日、会発足30周年記念として金砂大祭礼を見学し、まだその感動の余韻の中にいます。

今号はページオーバーで、その報告は次号送りになりました。43号をお楽しみに。

ゆみ sawarabi-y@nifty.com